



©田中梨乃



©lgaki photo studio 画像提供:豊岡演劇祭実行委員会



こんにちは、 共生社会

ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ



©田中梨乃



©トモカネアキ 画像提供:豊岡演劇祭実行委員会



写真:若本順平 (DOR)

2024年度を振り返る

「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」は“社会における真の共生とは何か”を考えるプロジェクトです。文化芸術を通して、障害の有無や、様々なルーツなど、自分とは異なるバックグラウンドへの理解も深め、互いに共にいることの新たなビジョンや価値を見出していきます。

今年度は、新たなチャレンジと積み重ねの1年でした。

まず、障害者を含む<ダンスカンパニーMi-Mi-Bi>が、豊岡演劇祭公式プログラム招聘という大きなチャンスをいただき、新作『島ノ舞ノ』を上演しました。個々の身体・状況を活かしながら対話を重ねて創作した作品を通じて、豊岡と全国からの観客に、表現のさらなる可能性と社会の新たなありようを提示できました。

4月、5月のメンバーの卒業や急逝は、予期せぬ状況でした。演出チームとパフォーマーは、対話を通じてそれぞれの状況に向き合い、多角的な視点を取り入れた創作と表現の問題に取り組みました。上演に向けての環境の整備も、貴重な学びとなりました。

また、<Resident Island Dance Theatre> (台湾) や<Carina Ho> (米/台湾) との交流は、次年度以降の共同制作の第一歩となりました。3度目となる<アダム・ベンジャミン>のワークショップでは、インクルーシブダンスの事業を今後手掛けていきたい方が多く参加しました。横浜を拠点に、精神障害・精神疾患を抱える当事者と自分たちの経験をもとにオリ

ジナルの演劇をつくる<OUTBACKプロジェクト>の神戸公演では、精神に障害がある人に対する理解を深め、同じように生きづらさを抱えた人が、劇場にはじめて来るきっかけにもなりました。

「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」も5年目に突入。継続の参加者は動きの幅の広がりや他者との関わりにも変化が見えました。障害がある人もない人も、一人一人が自分自身としてその場にいる、やわらかな場所。そこにダンスが生まれます。出張ワークショップや支援学校でのアウトリーチも実施しました。劇場で使える単語を学ぶ「オンライン手話講座」も開催。ろう者も気軽に来ることのできる劇場の輪が広がることを願います。

「こんにちは、共生社会」をはじめ6年が経ちました。

今年度は横浜や海外から新長田へ。新長田から豊岡はじめ、様々な地域へ。アーティスト達は、<豊かさとは何かを考え、一人一人の存在の力を感覚させる“種”>を運んでくれました。

活動拠点の新長田は多世代の多様な人が共に暮らすまちです。この事業に限らず、アート、多文化共生、福祉、医療、教育、子育て、まちづくりなど、一人一人ができる方法で地域にアクセスすることで、顔の見える関係が広がり、社会が変わり始めています。

今年度も多くの方と協働し、多大なるサポートをいただきながら事業を実施することができました。

関係してくださった皆様に、心よりお礼申し上げます。

「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」プロジェクト・チーフ 文

あや



ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

03 豊岡演劇祭2024『島々ノ舞々々』

05 公演レビュー 文:竹田真理

08 協力事業

国内外協働プログラム

09 Adam Benjamin

10 Resident Island Dance Theatre、Carina Ho

11 OUTBACKプロジェクト神戸公演・映像上映会

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

13 やさしいコンテンポラリーダンスクラス

14 やさコン+、旅するクラス

アウトリーチ

15 神戸市立いぶき明生支援学校、
神戸市立青陽灘高等支援学校、
京都府立中丹支援学校

手話講座

16 KAZUKI流 手話講座【単語編】

協力事業 / 情報保障

17 とつとつダンス in 大阪
情報保障
ウェブサイト・SNS

ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

豊岡演劇祭2024
フェスティバル・プロデュース

しまじまのまいまいまい

『島ノ舞』』

豊岡演劇祭
2024

障害のあるパフォーマーを含むダンスカンパニーMi-Mi-Biが、兵庫県豊岡市で開催された「豊岡演劇祭」の公式プログラムに招聘され、世界初演となるダンス作品を上演しました。テーマは「島」。障害の有無に関わらず、プロフェッショナルなアーティストの集団として活動してきたMi-Mi-Biは、これまで「障害者の一」という枠を超えて、新たな舞台芸術の可能性に挑戦してきました。それぞれの身体や感覚を持ちながら新しい文化を創り、歴史を積み重ねていく姿を「島」に例えて着想を得たダンスに加え、創作過程で起きた出来事も反映させて展開しました。客席には障害のある方もない方も全国各地から多くご来場いただき、世代やルーツ、障害の有無を超えて、舞台作品を楽しむ場が生まれました。

日程：2024年9月21日(土)、9月22日(日)

時間：両日ともに14:00

会場：豊岡市民プラザ

※両日ともにアフタートークあり(手話通訳付)

登壇者：

9/21 平田オリザ(豊岡演劇祭フェスティバルディレクター)+出演者

9/22 松岡大貴(豊岡演劇祭プロデューサー)+内田結花、森田かずよ、筒井潤

演出：内田結花、森田かずよ

出演：内田結花、KAZUKI、福角幸子、三田宏美、も、森田かずよ、米原幸

ドラマツルク：筒井潤(dracom)

音楽：嶺川貴子 衣装：福岡まな実

手話通訳：三田宏美、濱智絵、箕浦伸子、梶原奈緒子

舞台監督：岩崎孔二 照明：三浦あさ子 音響：西川文章、桐原まどか

宣伝美術：升田学 協働メンバー：中村風太

協力：はっぴーの家ろっけん 制作：NPO法人DANCE BOX(文、眞鍋隼介)

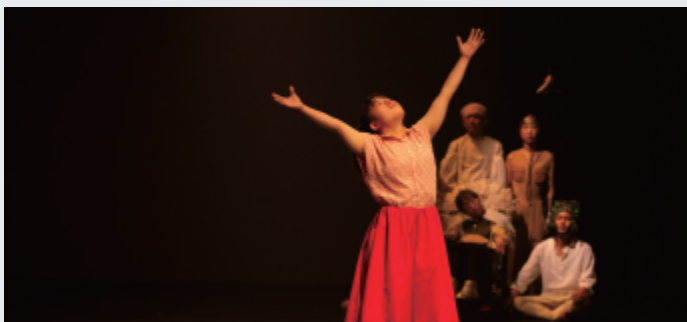
掲載情報：

- ・ステージナタリー【会見レポート】豊岡演劇祭2024(2024.6.14掲載)
- ・Lmaga.jp「観光ついでに芝居でも?今年の「豊岡演劇祭」見どころまとめ」(2024.6.29掲載)
- ・ラジオ関西西トピックス「豊岡演劇祭2024いよいよ開幕、エリア拡大で「巡ることを楽しんで」9月6日から」(2024.9.5放送)
- ・Kiss PRESS「<特集>豊岡で触れる芸術の秋「豊岡演劇祭2024~観る寄る巡る。~」(2024.9.13掲載)
- ・神戸新聞「神戸の障害者ダンスグループ、「感性」「空気」を舞台で表現 21、22日、豊岡演劇祭で新作」(2024.9.19掲載)
- ・日経新聞豊岡演劇祭特集「ダンスカンパニーMi-Mi-Bi「島ノ舞」」(2024.11.27掲載)



来場者の声

- ▶ 厳しいけど優しい舞台でした。物理的な壁とか精神的な壁とかを超えたものが感じられて良かったです。
- ▶ あっという間の時間でした。いくつもの集散を繰り返して、「島」の形がうかびあがってきた気がします。また観たいです。
- ▶ 他人と自分が違うこと、違うけど共に過ごせること、助け合うこと、そして私もダンスが好きなのを再確認できました。
- ▶ 「それぞれの身体でいい」と思えてホッと嬉しくなる作品だった。物を扱う時のそれぞれの工夫、人に触る時のそれぞれの在り方が美しいと思えた。
- ▶ どんな状況下でも他者への尊重が人をつなげるし、表現には区別がないと実感しました。
- ▶ 放出されるだけのエネルギーではなく、内包されたエネルギーが、各々、島々と重なることで生じる舞台
- ▶ いろんな島があるように、いろいろな人がいる、いろんな形、いろんな表情、声。それぞれの味があるなぁと感じた幸せな時間でした。



ダンスカンパニーMi-Mi-Bi



公演レビュー 竹田真理

「独立しつつ混交する島の時間の豊かさを体現」

Mi-Mi-Biの旗揚げ以来、2作目にあたる本作のテーマは「島」。独立した地形と固有の文化をもちながら相互に交通・混交する島々のイメージを、人の身体と集団のありように重ねている。障害のある人、ない人、障害のあり方も異なるMi-Mi-Biのダンサーたちが、各々の生きる技法や世界に対する眼差しをもって舞台に立つと、列島や群島のような「景」が立ちあがる。

設営された張り出し舞台に3人のダンサーが歩み出て来る冒頭のシーンは象徴的だ。福角幸子さんの強張る手に、森田かずよさんの手が重ねられ、さらにKAZUKIさんの手が上から包み込む。他人には見えない障害のある「も」さん、手話通訳士の三田宏美さん、ダンサーの内田結花さんの存在も、集団において固有でありつつ共にあることの可能性を問うている。

身体の水平な関係性に加えて、今作には縦

に流れる時間が織り込まれた。遠くへ旅立っていったメンバーと、新たに迎えたゲスト・ダンサー、その不在、記憶、循環がサブ・テーマである。ゲストの米原幸さんがマレピトとして島々を訪れ、はじけるようなグループでカンパニーに新鮮な生命感をもたらす。Mi-Mi-Biのダンサーたちは、花、草木、鳥などをモチーフとしたオリジナルの衣装(デザイン/制作・福岡まな実)を身に着け、島の自然や風土を思わせながら懐深く来訪者を迎える。森田・内田の共同による演出は根底に明るさがあり、衣装と相まって舞台はひょっこりひょうたん島のような寓話的な性格も帯びる。

各シーンで個々のダンサーの演技が光る。手話パフォーマーのKAZUKIさんの天変地異を語るような雄弁な手の動き。踊らない出演者「も」さんは、舞台上でコーヒーを淹れる。野点のような儀礼や死者への供養に通じる行為は舞台上のリアルな行為＝パ

竹田真理/ダンス批評

東京都出身、神戸市在住、関西を拠点に批評活動を行う。毎日新聞大阪本社版、国際演劇評論家協会日本センター発行「シアターアーツ」ほか一般紙、専門誌、ウェブ媒体等に執筆。ダンスを社会の動向に照らして考察することに力を注ぐ。

フォーマンスでもある。後方ではダンサーたちが盆踊りのような動きを見せ、現実の行為の時間と古来の踊りの時間が同時に現れる上演芸術の妙を感じさせた。

昔話に託した逝去したメンバーへの追想や、地面を強く踏んで音をたてるといった強い感情の表出は、故人へのやむにやまれぬ哀悼の表現といえるが、地を踏むとは、踊りの原初の形でもあり、言葉にできない喪失の大きさがダンスの形を借りてあふれたものと言っていいのだろう。

この意味で、福角幸子さんの麻痺を抱えた身体から絞り出される「ヤー ヤヤ ヤ」の声は、誰よりも深い喪失の中から発された、渾身の「魂のうた」と言えるものだった。幸子さんの音頭に客席の拍手も含め皆が歌と踊りで加わった“島々の唄”は、循環する時間を現在に更新し、カンパニーを外へと開く可能性に満ちている。



写真:岩本順平(DOR)



コラム

豊岡演劇祭2024

『島ノ舞い』を振り返って

筒井潤

『島ノ舞い』ドラマトウルク

演出家、劇作家、公演芸術集団dracomリーダー



「山に十日、野に十日、海に十日」。林業、農業、漁業の3つを組み合わせた島の暮らしをあらわす屋久島の言葉だそうです。これは島の住民が現実的に生きるための知恵です。

イギリスの障害者自身による運動「ディスアビリティ・アート・ムーブメント」では、主に次の3つ、「療法的なアート」（セラピー的な効果が目指されるアート）、「慈善的なアート」（組織やメディアの慈善性を押し付けら

れるアート）、「周縁的なアート」（「これはアートか否か」といちいち問われたり、アーティストやその表現が神話化されたりするアート）に対し異議が唱えられているとのこと。Mi-Mi-Biは当然このような問題を承知しつつ、それら3つの要素が組み合わさった環境で楽しみを見出しながら活動されています。これはカンパニーとして現実的に生きるための知恵です。肥大化する無味乾燥な「自由」「平等」に要求される踊りと、身体に宿る切実な個の踊りのはざまに揺れるMi-Mi-Biやその関係者の表情を目の当たりにして、いかに正しいとされる考えであったとしても、誰がいつどの立場から述べるかによってはたやすくきれいごと

参考図書：

『バリアフリー・コンフリクト 争われる身体と共生のゆくえ』

中邑賢龍、福島智（編）東京大学出版会 第7章 障害者のアートが問いかけるもの「表現」をめぐるコンフリクト 田中みわ子



内田結花

『島ノ舞い』共同演出

ダンサー、振付家



カンパニーの立ち上げから関わり、丸3年が経ちました。今年度は、豊岡演劇祭で新作を上演する機会をいただけただことの嬉しさを感じるとともに、「Mi-Mi-Biだからこそそのダンスを伝えたい」という熱のこもった年になりました。

創作をスタートして1ヶ月ほど経った晩春、突如ひとりのメンバーの訃報が届きました。彼とはその数日前たまたま自宅を訪問して話す機会があり、その時

は体調不良など微塵も感じることなく、作品に関係のあることもないことも、たくさん話し、たくさん笑ってその日は別れました。話した後もLINEでやり取りを続けており「寄って、もらえてありがとうございます！よろしくです！」と彼から絵文字を含めたメッセージが届き、さあこれから本番に向けて！と奮い立った矢先でした。

私は今までにも近い人を亡くした経験はありましたが、共に舞台で踊った仲間を亡くしたことはありませんでした。特に彼とは、前作でデュオをつくって踊り、アイコンタクトやボディコンタクト、コンタクトせずとも、観客に届ける訳ではない、舞台の上だけで交わす濃密で特別なコミュニケーションを重ねてきた仲でした。このように私を含めたメンバーそれぞれ濃淡はあれど、彼と踊った記憶が残る身体たちでクリエイションを進めることになり、私は演出として、非常に戸惑いました。私たちは彼の存在をどのように舞台に反映させるかについて、作品に関わる全員を巻き込んで、膨大な時間をかけて対話を重ね、試行錯誤を繰り返しました。本作のクリエイションにおいて、不可欠な時間だったと思います。

上演後に寄せられたアンケートの中で、彼の名前を何度も見かけました。上演時に彼の存在や気配を感じたというものもありました。私は作中、もし彼がここにいたら…とパラレルワールド的状况を思い浮かべずにはいられなかったのですが、それを表現しようとしなくても、見てくださっている誰かの脳裏にはあらわれていくことに驚きました。

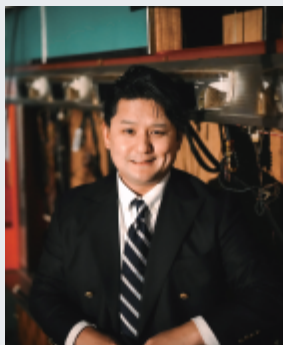
最後に、この度も沢山の方々のご協力があって上演まで辿り着き、またすべての公演を終演することが叶いました。今回の公演は、舞台上上がることと上がらないことに関わらず、わたしたちの活動になくはならない支援やご協力がたくさんあることを再実感する時間でもありました。心より感謝申し上げます。

コラム



豊岡演劇祭の公式プログラムとして
MiMiBiを上演したについて

松岡大貴 豊岡演劇祭プロデューサー/コーディネーター



©ayakatomokane

豊岡演劇祭がMi-Mi-Biに出会ったのは2022年、フリンジとしてご参加頂いた時からです。

本年度と同じ会場、豊岡市民プラザで上演された『未だ見たことのない美しさ～豊岡ver.～』は演劇祭関係者の間でも話題となりました。自分自身も特に、車椅子で縦横無尽に駆け巡る福角宣弘さんと、同じく車椅子で言葉を連呼する、叫ぶ、と言って良いのかも分からない幸子さんの表現を今でも鮮明に覚えています。その舞台

は、同じ世界の中で異なる身体性や異なる価値観、創作についての1人1人異なるアプローチをそのまま共存させようかという試みを行っている実験的な舞台に感じられました。

Mi-Mi-Biを公式プログラムとして招聘する事となった豊岡演劇祭2024は、豊岡演劇祭のアクセシビリティ元年とも言うべき年になりました。演目ごとのアクセシビリティ対応項目(車椅子入場可、舞台手話通訳付き等)をHP上に表示することは、公式プログラムだけではなく野外公演を含めたフリンジプログラムでも対応して頂く事になりました。なによ

り演劇祭関係者の考え方として、劇場以外の公演が多い演劇祭の特性も踏まえて、それぞれの会場でどのような対応が可能となるのか、公演を実現・運営するプロセスにおいてアクセシビリティについて意識化された年となったと思います。

一方で、当然のことながら地域のユニバーサル対応の課題も改めて認識する契機となりました。(宿泊施設のエレベーターの有無・間口・奥行き、多目的トイレの有無、医療的ケアを必要とするメンバーへの対応など)。特に医療的ケアについては豊岡の地域的リソースだけでは賅えず、あるいは条件が合わずに、対応出来ないこともありました。これはアーティスト、観客の垣根なく大きな課題であると市の担当課とも共有したことです。この先豊岡演劇祭だけでなく地域全体として検討していくべき多くの課題を認識出来たことは重要に感じています。

最後に、今回のMi-Mi-Bi『島ノ舞』のクリエイションの中で、森田さん内田さん、そして文さんを中心に、メンバー同士の対話の多さとあり方に大変興味を惹かれました。振付を確認する時間の何倍もの時間を、それぞれとの対話に努めるあり方は、これからの舞台芸術の創造環境において、さらにはフェスティバルの企画及び運営においてもとても大きな示唆を頂いたと感じています。これからより多様に、より個人的な社会となる中で、Mi-Mi-Biの活動が示すものは、ますます重要になっていくと心から思っています。



ダンスカンパニーMi-Mi-Bi 協力事業

障害のある人と考える舞台芸術表現と鑑賞のための講座2024

「旅する身体～ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi～」上映会 in 神戸

「障害のある人と考える舞台芸術と鑑賞のための講座」のひとつとして、神戸文化ホールにて、Mi-Mi-Biドキュメンタリー映像作品の上映会が開かれました。上映後には「見えない人のための鑑賞ガイド」を実施し、その後豊岡演劇祭2024で上演したばかりの『鳥ノ舞』の一部を中心に再構成した20分のパフォーマンスを披露しました。

日程：2024年9月27日(金)15:00 会場：神戸文化ホール 中ホール 料金：1,000円

ショートパフォーマンス

出演：内田結花、KAZUKI、福角幸子、三田宏美、も、森田かずよ、米原幸

音楽：嶺川貴子、日野浩志郎 衣装：福岡まな実 協働メンバー：中村風太

アクセシビリティ

ショートパフォーマンス：見えない人のための鑑賞ガイド(手話通訳付) ※手話通訳：久保沢香菜

映像上演：バリアフリー上映(音声ガイド・日本語字幕付)

文化庁 令和6年度「障害者等による文化芸術活動推進事業」

主催：文化庁、一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL 共催：神戸文化ホール(指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団)

企画：一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL 制作運営：株式会社precog 広報：THEATRE for ALL 協力：TBS

映画監督・志子田勇特集 in 元町映画館

ドキュメンタリー映画『旅する身体～ダンスカンパニーMi-Mi-Bi～』

神戸在住の映画監督である志子田勇さんの作品のひとつとして、元町映画館で一週間限定で上映されました。上映期間に開催された舞台挨拶では、志子田監督、Mi-Mi-Biメンバー、カンパニーをプロデュースしてきた文(あや)に加え、俳優でダンサーの森山未来さんにご登壇いただきました。来場者から質問や感想を交えながら、そして応援の声もかけていただきながらの上映になりました。

日程：2024年11月2日(土)～11月8日(金)各日17:40 会場：元町映画館 主催：元町映画館 監督インタビュー

アクセシビリティ

バリアフリー上映(音声ガイド・日本語字幕付)：11/3(日)、11/5(火)、11/7(木)

舞台挨拶：11/3(日)手話通訳付 ※手話通訳：箕浦伸子



『旅する身体～ダンスカンパニーMi-Mi-Bi～』

監督：渡辺匠、志子田勇

製作著作：TBSテレビ 協力：NPO法人DANCE BOX



FUKU OKA Christmas Festa 2024 -シアターフェス-

旅する身体～ダンスカンパニーMi-Mi-Bi～

ドキュメンタリー映画上映&森田かずよ講演会 / 学生向けダンスワークショップ

福岡にて開催された「FUKU OKA Christmas Festa」にて、Mi-Mi-Biドキュメンタリー映像作品が上映されました。上映後には、Mi-Mi-Biメンバーの森田かずよによる講演会を開催。翌日には、学生たちに向けたダンスワークショップも実施しました。

日程：2024年11月28日(木)～29日(金) 会場：九州大学大橋キャンパス多次元棟ホール

講演会・ワークショップ講師：森田かずよ

アクセシビリティ：バリアフリー上映(音声ガイド・日本語字幕付)

主催：FUKU OKA Christmas Festa 実行委員会 共催：一般社団法人クリエイティブ共生都市



国内外協働プログラム

Adam Benjamin

インクルーシブダンス・ワークショップ

2日間にわたって、イギリスのインクルーシブ・ダンスのパイオニアでもあるAdam Benjaminさんによる特別ワークショップを開催しました。今回はインクルーシブなダンスワークショップのナビゲーターの育成も目的としており、クラスの始め方、コミュニケーションの方法、空間への意識や視線について、参加者への声のかけ方、参加者の何を見ているのか、大事なポイント等、豊富な経験と知見から基づくナビゲーターとしての視点や心得を伝えていただきました。

8/21にMi-Mi-Bi新作公演に向けてのアドバイスももらったほか、8/23のワークショップにはOUTBACKプロジェクトのメンバーもワークショップに参加し実施しました。

会場: ArtTheater dB KOBE 講師: Adam Benjamin

日英通訳: 益田さち 手話通訳: 三田宏美

①ダンスナビゲーターのためのワークショップ

日程: 2024年8月22日(木) 10:30~12:30 / 13:30~16:30

8月23日(金) 10:30~12:30

対象: ワークショップナビゲーター、アーティスト、教育や福祉関係の方

②ひとりひとりのダンスの可能性をひらくワークショップ

日程: 2024年8月23日(金) 14:00~16:00

対象: 中学生以上、障害のある人もない人も



写真: 鈴木優

Resident Island Dance Theatre (台湾) ×

ダンスカンパニーMi-Mi-Bi + α (日本) エクスチェンジプログラム

台湾を拠点とし、障害のあるダンサーも在籍するResident Island Dance Theatreとの振付手法を交換するエクスチェンジワークショップを開催し、ダンスカンパニーMi-Mi-Biをはじめとする日本在住のアーティストたちが参加しました。自己紹介の後、さっそくResident Island Dance Theatreの方々によるナビゲーションで日頃のワークを体験し、次にダンスカンパニーMi-Mi-BiのKAZUKIによる「目で見える身体表現 ポディランゲージ」のワークを行いました。手話、日本語、中国語、英語という4つの言語を介したコミュニケーションは、ダンスや演劇を通じた新たな表現の可能性を感じさせ、未来に向けた創作現場を模索する第一歩となりました。

日時: 2024年7月26日(金) 13:00~17:00 会場: ArtTheater dB KOBE 通訳: 手話、日本語、中国語、英語

このエクスチェンジプログラムを機に、2025・2026年度に国際共同制作に向けて動きはじめました。



Carina Ho ムーブメントワークショップ&

スペシャルダンスジャムセッション

アメリカで活躍する車椅子ユーザーの音楽・ダンスアーティストCarina Hoさんによる、音楽家を交えたジャム・セッションとワークショップを開催しました。1日目は、生演奏とともに、独自の動きを探して踊る「ムーブメントワークショップ」と、1時間ノンストップで他者の踊りや存在を感じ音楽に助けられながら踊り続ける「ジャムセッション」を。2日目は、インクルーシブな場における「コレオグラフィワークショップ」を開催し、最後にはその場にいたみんなでショートピースをつくり発表しました。これまで実践してきたことと重なる部分もあり、また新たな発見もある2日間のスペシャルな時間となりました。

① ムーブメントワークショップ

日時: 2024年10月14日(月・祝) 13:30~15:00 講師: Carina Ho

② スペシャルダンスジャムセッション

日時: 2024年10月14日(月・祝) 16:00~17:00 音楽: Carina Ho, Angela Hsieh, Holly

日英通訳: 鞍掛綾子 会場: ArtTheater dB KOBE (①②ともに)

③ コレオグラフィワークショップ for Mi-Mi-Bi

日時: 2024年10月15日(火) 14:00~16:00 会場: 長田区文化センター 日英通訳: 山口恵子



写真: 鈴木優

国内外協働プログラム

OUTBACKプロジェクト

ドキュメンタリー映画上映会『わたしを演じる私たち』

横浜を拠点に、精神障害・精神疾患を抱える当事者と自分たちの経験をもとにオリジナルの演劇をつくる活動をしている「OUTBACKプロジェクト」。8月の神戸公演に先駆けて、その活動を追ったドキュメンタリー映画『わたしを演じる私たち』を、神戸市長田区の多世代型介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」にて上映しました。高齢者、介護者、地域住民、そして他方から来場した方々とともに、OUTBACKプロジェクトでどんな人たちが、どんな劇を、どんな風につくり、活動しているのかを知る機会になりました。

2024年/89分 監督・撮影・編集：飯田基晴

OUTBACKプロジェクト 神戸公演『旅するOUTBACK』

『愛と変容についてのラップバトル』

レクチャートーク「トラウマやひきこもりからの回復」

2023年、松山にて上演し好評を博した、心の病を経てぶつかってきたことや向き合ってきたことをラップとシーンで構成したラップ演劇『愛と変容についてのラップバトル』。2024年には関西Ver.として新しく作りかえてパワーアップし、神戸と京都にて巡回公演を実施しました。演劇上演後には、トラウマやひきこり経験があるOUTBACKプロジェクトの方々も交えたレクチャートーク「トラウマやひきこもりからの回復」を行いました。

日時：2024年8月25日(日) 13:30 会場：ArtTheater dB KOBE

料金：1,500円 レクチャートークゲスト：山根俊恵(山口大学医学部教授)



コラム

中村マミコ OUTBACKアクターズスクール校長

ダンスボックスはかっこいい空間だ。舞台上の人やものをくつきりと際立たせる、とてもクールでソリッドな場だ。けれども、ダンスボックスに集う人たちは、実にあたたかく、カラフルで雑多である。私たちが滞在している間、常にどこの誰だかわからない人たちが出入りしていた。そして、互いによく知らないながらも、一期一会のコミュニケーションを楽しみ、いつも新鮮な風が吹き抜けていた。そんな場所だからこそ、社会の枠組みから少しばかり外れがちで個性豊かなOUTBACKメンバーは、ナチュラルに受け入れてもらえたのだと思う。雑多な場所は、懐が深い。OUTBACKは拠点を持っていないが、ダンスボックスのように懐深い集団、場をつくり続けられたらと改めて思った。



コラム

2024年を振り返って

森田かずよ

ダンサー、俳優、Mi-Mi-Biメンバー
大阪大学人文学研究博士課程(臨床哲学)在籍中



2024年Mi-Mi-Biは波瀾万丈な1年でした。豊岡演劇祭にフェスティバルプロデューサーとして選出いただき、新作『島ノ舞ハ(しまじまのまいまい)』を上演しました。その創作過程で大切なメンバーを亡くし、喪失を抱えながら、メンバーみんなで何度も議論を交わしながら、最後は力を振り絞ってなんとか公演に到達できた、そんな体感があります。にもかかわらず、舞台の上でお客様に

提供できたものは、人が生きる営みであり、豊潤だったような気がします。豊岡演劇祭実行委員会、はっぴーの家ろっけんをはじめ様々な方にご協力いただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。今年度はたくさんの方と出会うことが出来ました。イギリスのアダムベンジャミンのワークショップをはじめ、台湾のResident Island Dance Theatreとはワークをシェアし、アメリカのダンサーでありミュージシャンのCarina Hoとは生演奏を交えたワークを行いました。国際色豊かな顔ぶれで、身体を通して、感覚や文化の違いに触れ、お互いアイデアを交換することで、新しいMi-Mi-Biの可能性を見たように思います。Mi-Mi-Biのドキュメンタリー映像『旅する身体』も日本各地を旅しています。来年度も続いていくMi-Mi-Biの活動をどうかあたたかく見守っていただけますようお願い申し上げます。



西岡樹里

ダンサー
「やさしいコンテンポラリーダンス」ナビゲーター



©阪下混成

2024年11月から「やさコン」は5年目が始まりました。お馴染みの人が増え「クラスのリーダーをしたい」と名乗り出てくれる人も現れ、やさコンの「顔」が増えていく状況を心強く感じています。今年度も特別支援学校でのアウトリーチを実施し、終了後、生徒からは「楽しかった」という声や、先生からは「予想よりも生徒が積極的に参加できていた」「学年やコースを超えた交流ができた」などの感想を頂きました。

先生や職員皆さまのご理解とサポートに心から感謝します。また出張WSを実施した先などで、より重度の障害をお持ちの方とも過ごし、WSの設えを見直し異なるアプローチにも取り組んでいきたいと考え始めました。「踊りたくても(様々な条件で)踊れない人はどうすればいいのか考えたいですよね」と真っ直ぐ話してくれたご家族の言葉が背中を推してくれています。

改めて、ダンスは踊ってみたいと思えば、どなたでも踊れるものだと思いますが、誰も同じ踊りではないと実感します。理想も違い、唯一の正解もありません。それでも、自らの“からだ”と付き合いながら魅力的に踊る人に私はここでも出会うことができました。その踊りへの多様な向き合い方の背景に、異なる環境で積み上げられた“からだ”の知恵や各々の物語が感じ取れ、それも踊る為の重要な栄養になっていると感じます。それぞれの“からだ”を携えて集まる時間に希望を感じます。参加者の皆さまも、素敵だなどと思うダンスを各々の目線から見つけているようにも思います。やわらかく影響を交換し合いながら、自らの踊りを耕していく時間を、丁寧に見直しつつ、皆さまと続けていけると幸いです。



やさしいコンテンポラリーダンスクラス

踊ってみたい方はどなたでも♪

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

年齢や障害の有無に関わらず「踊ってみたい方」が参加できる踊りの場として開いてきた『やさしいコンテンポラリーダンスクラス』。通称「やさコン」。今年度もたくさんの人が月に一度のペースで劇場に集まり、ダンスを楽しみました。クラスは、簡単なストレッチからはじまり、周囲の雰囲気をゆるやかに感じつつ、それぞれのペースを大切にしながら、進みます。継続して参加する人が、はじめて参加する人を迎え入れながら、毎月25名前後の人たちが劇場に訪れクラスを受講しました。

日程:2024年4月21日(日)、5月12日(日)、6月9日(日)、7月14日(日)、
8月11日(日)、9月8日(日)、10月6日(日)、11月9日(土)、
12月1日(日)

2025年1月12日(日)、2月9日(日)、3月16日(日)

時間:10:30~12:00 **会場:**ArtTheater dB KOBE **参加費:**無料(カンパ制)

対象:踊ってみたい方はどなたでも。踊ったことのない方も大歓迎。

障がいのある方も大歓迎。ベビーカーなどでのお子さんづれも。

ナビゲーター:西岡樹里

参加者の声

Q. あなたにとって「やさコン」の時間はどんな時間ですか？

- ▶ 日常の体験とは違う体験ができる時間
- ▶ 自分が優しくなり、人の優しさを肌で感じる時間
- ▶ いろいろとたくさんのことをみんなで踊れる時間
- ▶ 自由に動けて、いろんな人と交流できる時間



写真:鈴木優

発表をめざすクラス やさコン+ (プラス)

2023年からスタートした『やさコン+』は、「障がいがある人もない人も、ダンスのおもしろさを知っている人、集まれ!」という呼びかけで集まった参加者たちが、発表に向けて、じっくりとダンスに向き合うクラスです。今年度は、劇場ArtTheater dB KOBEでダンスのショートピースを創作し、神戸大学で開催された「共に学び、生きる 共生社会コンファレンス」(主催:兵庫県教育委員会、神戸大学、文部科学省)にて発表しました。

発表:2024年10月5日(日) **会場:**神戸大学
ナビゲーター:西岡樹里
出演:是川恵有、大場勇輝、後藤由里、畑愛夏



出張版やさコン 旅するクラス

いつもの劇場を飛び出して、踊ってみたい方がいらっしゃる場所へナビゲーターが出張し“ダンス体験をお届け”する、出張版やさコンこと『旅するクラス』。2024年度は、障害のある青年たちが月に一度集う「わくわくJOY+」と、昨年に引き続き京都府福知山市にて開催しました。参加者からは「恥ずかしかったけど楽しめた」「面白い動きが多くて楽しかった」「ダンスはあんまりやったことがなくて、不安だったけど、楽しめた」などの感想が寄せられました。

ナビゲーター:西岡樹里

出張①わくわくJOY+1月 みんなでダンス
日時:2025年1月19日(日) 13:30~15:00
会場:六甲風の家(兵庫県神戸市)
主催:障がいのある青年の生涯学習支援会

出張②やさしいコンテンポラリーダンスクラス in 福知山
日時:2025年2月11日(火・祝) 13:30~15:00
会場:市民交流プラザふくちやま(京都府福知山市)
主催:一般社団法人福知山芸術文化振興会 **制作:**株式会社Locatell



©田中製乃

アウトリーチ

神戸市立いぶき明生支援学校

日程:2024年9月24日(火) 時間:13:10(80分)

ナビゲーター:西岡樹里 アシスタント:内田結花、新家綾

対象:高等部2年生(55名)

先生の声

たくさんのアイデアをいただき、生徒たちもノリノリで取り組んでいました。他のグループが踊っているときに、「早く自分たちもやってみたい!」と言う生徒がいたほどです。生徒同士の関わりが広がるような踊りもあり、大変勉強になりました。

神戸市立青陽灘高等支援学校

日程:2025年2月6日(木) 時間:①9:30 ②10:50(70分×2回)

ナビゲーター:西岡樹里

アシスタント:田中幸恵、下村唯、新家綾、文、内田結花、佐藤翼、下野弥萌、堀池千琴

対象:①3年生(48名) ②1-2年生(68名)

先生の声

どの学年も講師の方の明るさに引っ張られるように、笑顔いっぱい体を大きく動かすことができました。自然と「楽しい」という言葉が飛び交う素敵な時間でした。

京都府立中丹支援学校

日程:2025年2月12日(水) 時間:①10:00 ②11:00(50分×2回)

ナビゲーター:西岡樹里

アシスタント:Cana、花岡麻里名、文、下村唯、杉本昇太

対象:①56人、②51人(小学部、中学部、高等部混合)

共催:一般社団法人福知山芸術文化振興会

制作:株式会社Locatell

先生の声

鑑賞するだけでなく、体験できる活動が多く子ども達はとても楽しんでいました。参加した子どもの一人は、「ダンスで大きな動きで踊れて楽しかった。」と感想を述べていました。道具を使ったり、ペアで取り組んだり、様々な取組方法があり、今後の授業でさらに発展させて取り組んでいけそうな内容でした。



©田中梨乃

手話講座

オンライン講座

『KAZUKI流 手話講座～単語編～』

全10回の連続手話講座をオンラインで開催しました。講師は、ダンスカンパニーMi-Mi-Biのメンバーであり、俳優、モデル、サインパフォーマーとして多彩に活躍する「手の表現者」KAZUKIさんです。今回は、指文字は覚えた方を対象に「パフォーマンスアーツの現場で使える単語」を中心に実施しました。講座中は音声を使わず、質問は手話やボディランゲージ、またはチャットで行いました。講座は、お題を決めて、それにまつわる情景やイメージなどを身体で視覚的に表現する「目で見えるウォーミングアップ」から始まり、その後はろう文化についても触れながら手話を学びました。

日程:全10回

2025年1月14日(火)、1月21日(火)、1月28日(火)、2月4日(火)、2月18日(火)、2月25日(火)、3月4日(火)、3月11日(火)、3月18日(火)、3月25日(火)
オンライン(Zoom)にて開催

料金:15,000円 定員:5名 講師:KAZUKI



コラム

KAZUKI ろう者。俳優、身体表現者、手話パフォーマー



ダンスカンパニーMi-Mi-Biのメンバーとして、劇場がろう者にとってよりアクセスしやすい環境になるように、今回、オンライン手話講座を開催。劇場や舞台の専門用語を学ぶ機会を作り、聴者とろう者が互いの文化を理解し合える場を目指しました。多くの劇場では情報保障が不十分であり、ろう者が公演を楽しみにくいのが現状です。手話の導入や環境を整えるように進め、誰もが舞台を楽しめる劇場づくりを目指しています。



協力事業

認知症者・高齢者と介護者をつくるアートのような、ケアのような とつとつダンス in 大阪

ダンサーであり振付家の砂連尾理さんとtorindoが、2009年から2020年まで京都府舞鶴市にある特別養護老人ホーム「グレイスヴィルまいづる」とともにやってきた認知症高齢者・障害者と介護者とのダンスワークショップとダンス公演『とつとつダンス』。2020年以降、その活動の場を、オンラインや関東圏・鹿児島、さらには、海外へと広げ、複数のダンサーやアーティストを交えながら、認知症や高齢者の方、介護者の方とともに、ケアとアートをめぐる交流・対話の場を広げています。この度は、日本、マレーシア、シンガポールの認知症者、介護者、アーティストたちと繰り広げてきたダンスワークショップの様子をダンサーたちが再現するパフォーマンス公演と映像作品の展示を大阪にて行いました。

日時: 2025年1月25日(土) 14:00、18:00、1月26日(日) 14:00

会場: アートエリアB1

料金: 2,500円(前売: 当日とも) ※18歳以下無料 ※介助者・同伴者無料

出演: 砂連尾理、神村恵、西岡樹里、大迫健司、石田智哉

主催: 文化庁、一般社団法人torindo 共催: 一般社団法人アートエリアピーワン

企画制作: 一般社団法人torindo 広報・制作協力: NPO法人DANCE BOX

文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」日本⇄アジア太平洋 国際交流事業～認知症者・高齢者と介護者をつくる「アートのような、ケアのような《とつとつダンス》」



写真: torindo



写真: TOSHIE KUSAMOTO

情報保障

視覚障がい者のための鑑賞ガイド

実施公演:

障害のある人と考える舞台芸術表現と鑑賞のための講座2024 Mi-Mi-Biショートパフォーマンス。パフォーマンス直前に実施。言葉で舞台の形状やそれぞれの衣装の特徴など、公演を作り出す要素や公演の構成をできるかぎり伝えました。

言語通訳

多数のプログラムに手話通訳を導入。また日英通訳、日中通訳など必要に応じて、通訳を導入しました。

X / Instagram

公演やイベントの情報の他、日々の様子などを配信しています。



X



Instagram



こんにちは、共生社会



やさしい
コンテンポラリー
ダンスクラス

字幕

実施公演:

豊岡演劇祭2024 Mi-Mi-Bi『島ノ舞ノ』、障害のある人と考える舞台芸術表現と鑑賞のための講座2024 Mi-Mi-Biショートパフォーマンス他、日本語字幕を投影しました。

ウェブサイト

2つのウェブサイト(こんにちは、共生社会プロジェクト全体について、やさしいコンテンポラリーダンスクラス単独ウェブサイト)を運営し、障がいのある方もない方も、ウェブサイトを見たときに情報が伝わりやすいよう工夫を重ねながら運営しています。またこれまで開催した公演やイベントなどの情報も、開催後に「レポート」として掲載しアーカイブしています。文字サイズや色の変更、日本語の他に4つの言語に自動翻訳に対応しています。



コラム

2024年を振り返って

三田宏美 踊る手話通訳士、Mi-Mi-Biメンバー、サイレントプロジェクト・メンバー



石の上にも3年、という言葉がありますが、Mi-Mi-Bi3年目の今年度は武内美津子さんの卒業、そして福角宜弘さんの逝去という大きな喪失が重なって。改めて見えない美津子さん、車椅子の福ちゃんと重ねて積み上げてきた身体感覚があったこと、そしてそれらは「そこに美津子さん、福ちゃんがいる共々動いてきたからこそ」立ち上がってきた様々だったのだということ思い知らされました。

そこから新しい風、米原幸さんを迎えてのクリエイション。そしてResident Island Dance TheatreとのエクステンションやCarina Hoさんとのワークショップ、セッション等。今年度もまたそれはそれはたくさんの言葉や感覚を重ねた一年でした。

新家綾 NPO法人DANCE BOXスタッフ、アウトリーチ・コーディネーター

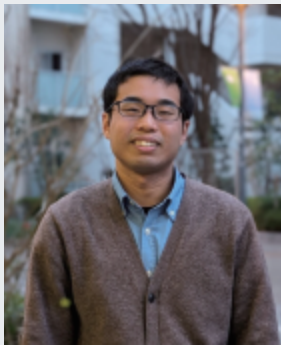


今年度に会った人たちはほとんどが「久しぶり」「元気だった？」と既けい合せる仲で、最初から安心した空気感の中で実施できたのが2024年度の大きな特徴だと思います。経験の積み重ねは、こちらがナビゲートしなくとも自然と他者を受け入れ、自身の表現を受け入れる土台となっていました。ソロの活動をしてきたかと思えば仲間と一緒に踊ることを楽しんでいたり、自分の表現を繰り返して突き詰めて

ていたり、と多彩な表現が同時多発的にそこら中で生まれていました。また、その中で突出する「見てくれ」と言わんばかりの(実際に「見て」という生徒もいました)堂々たる踊り。自信へと繋がっていく様子が見取れる場面も例年よりかなり多かったですと感じています。

ダンスという手法を通して一人ひとりと向き合う時間はいつも、コミュニケーションの根本的な部分を考えさせられます。それが生徒であれ先生であれ、単純に目が合うこと、笑いあえること、時には疲れたと言えることも、ヒトとヒトが同じ時間を過ごしているに過ぎないのだと、シンプルな気持ちに今回も立ち返らせてくれました。ただただ笑いながらみんなと踊り合えるあの時間が、私の大好きな瞬間となっています。そしてあの表情最高だったと鮮明に思い出させる生徒たちの多いこと！豊かさで満ち溢れた彼らとまた、再会できることを切に願っています。

杉本昇太 NPO法人DANCE BOXスタッフ、ダンス批評、ワークショップ・アシスタント



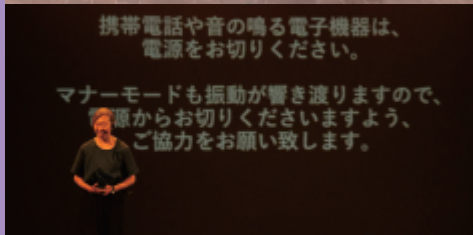
やさしいコンテンポラリーダンスクラス(以下やさコン)にスタッフとして関わって1年が経った。はじめはどのように立ち回ればいいのか分からなかったが、だんだんと参加者の立場になって考えられるようになってきた。

ある参加者と二人組になったとき、飛行機のように両腕を広げて、お互いの体を潜り抜けるというワークを行った。しかし、参加者の人はどうしたらいいかわからず戸惑っていた。そこで私は股下を指で指して、その方に潜るように促した。視覚で示した方が分かりやすいだろうと思ったからだ。するとその人は指先に導かれるように股下を通り抜けてくれた。

さらに、他者の身体の声も聞けるようになってきた。相手の手に自分の手を重ね、相手の動きに身を委ねるというワークがある。相手がどう動きたいかを感じ取るのだ。相手から入力された動きのエネルギーを、自分の体を通じて出力する。相手の動きや呼吸ひとつひとつに意識を集中させるのだ。上手くいくと相手と同化しているような心地の良い感覚をもたらす。たとえば言葉での意思疎通は難しくても体でコミュニケーションをする方法を知った。だから、もっとみんなの声を聞きたいし、聞けるようになりたい。そう思えるようになったのもやさコンに参加し始めてからだ。やさコンとは、他人の声を体で聞く力を育くむ場でもあるのだ。



©田中梨乃



携帯電話や音の鳴る電子機器は、
電源をお切りください。
マナーモードも振動が響き渡りますので、
電源からお切りくださいますよう、
ご協力をお願い致します。



こんにちは、共生社会

ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ



©gaki photo studio 画像提供: 豊岡演劇祭実行委員会



©田中梨乃

主催:文化庁、NPO法人DANCE BOX
企画制作:NPO法人DANCE BOX
編集:内田結花 デザイン:Creative unit DOR